

1 地域資源を活かした魅力ある観光地域づくり

R7.2
商工観光課

めざす姿

- 魅力的なおもてなしに満足し、「また来たい！」という来訪者が増えている。
- 市民の誇りある観光地として、市内からの来訪者も増えている。

	推移								目標
	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R8
観光消費額（百万円）	4,954	4,801	4,501	4,383	2,484	2,751	3,942	4,088	4,600
一人当たり観光消費額（円）	3,715	3,948	3,846	3,987	4,329	4,316	4,401	4,299	4,200

7年度の ポイント

- ① 中央アルプス国立公園の保全と活用
- ② 高原観光地の再生事業（駒ヶ根高原グランドデザインの具現化）

①中央アルプス国立公園の保全と活用

- ・ 檜尾小屋及び避難小屋等の適正な管理運営
 檜尾小屋（営業期間7月中旬～10月上旬予定）
 【継続】 【予算額 5,963千円】
- ・ 登山道等の年次的な整備や適正な維持管理の実施
 登山道整備や維持補修など適正な管理を行う。
 【継続】 【予算額 1,480千円】
- ・ 【R6繰越】 自然環境整備支援事業（空木岳登山道）
 【継続】 【予算額 5,000千円】
- ・ 中央アルプス山岳環境の保全と活用の検討
 県天然記念物である千畳敷カールや山域全体の保全と活用を検討する。
 【継続】 【予算額 509千円】
- ・ 中央アルプスにおける山岳遭難防止への取り組み
 中央アルプス地区山岳遭難防止対策協会の運営
 【継続】 【予算額 682千円】
- ・ 中ア国立公園指定5周年「信州山の日」タイアップ企画
 「信州山の日」イベント、FM長野タイアップ企画など
 【継続】 【予算額 500千円】
- ・ 専門職員の配置による山岳観光振興の促進
 山岳観光に特化した臨時職員の配置を行う
 【新規】 【予算額 1,513千円】



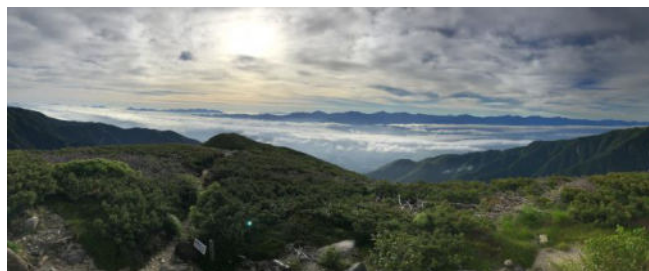
リニューアルした檜尾小屋



檜尾岳テント場



統一デザインによる登山道標



檜尾小屋から望む南アルプスの眺望



②観光拠点施設の整備・来訪者満足度向上

1) 観光施設管理運営事業

- ・ 観光施設の指定管理を実施し、適正で効果的な運営に努める **拡充** 【予算額24,775千円】
駒ヶ根ファームス、水と森のアウトドア体験広場、駒ヶ根キャンプセンター、こまくさの湯、戸倉山キャンプ場
- ・ 観光施設の適正な維持管理を実施する **継続** 【予算額 5,841千円】
観光施設及び駒ヶ根高原一带の適正な維持管理を行う。
- ・ 駒ヶ根高原温泉開発㈱の支援等 **継続** 【予算額 財政支援 154,200千円 基金積立23,809千円】
早太郎温泉郷の源泉管理及び温泉供給施設管理の運営支援、温泉開発基金積立
5号源泉掘削に向けた取り組みへの支援 **継続**



こまくさの湯



アウトドア体験広場



駒ヶ根キャンプセンター

2) 高原観光地の再生事業

- ・ 高原の良好な環境を守り育てるため維持管理を実施する **継続** 【予算額 1,650千円】
駒ヶ根・宮田高原を美しくする会など
- ・ 駒ヶ根高原ランドデザイン具現化事業の実施 **継続** 【予算額 1,300千円】
駒ヶ根高原におけるWi-Fi環境を活用した情報発信と情報収集
レンタサイクル、駒ヶ根高原周遊プランの造成、山の子利活用計画など
- ・ 駒ヶ根高原中核観光拠点施設の基本調査 **継続** 【予算額 1,000千円】
官民連携による観光中核拠点施設の再整備基本調査の実施
- ・ 観光施設改修事業 **継続** 【予算額 33,360千円】
こまくさの湯、味わい工房など年次計画的な施設改修を実施する。



駒ヶ根ファームス



菅の台バスセンター



駒ヶ根高原周遊の促進



サイクルツーリズム

2 高速交通網を活かした広域観光連携

R7.2
商工観光課

めざす姿

- 魅力ある観光地域づくりができていて、多くの人が集い賑わっている。
- 市内への来訪者が増えている。

	推移								目標
	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R8
観光地来訪者数（千人）	1,334	1,216	1,170	1,099	574	638	896	951	1,320

7年度の
ポイント

①魅力ある観光地域づくりの推進

①観光プロモーション活動事業

- ・ 観光誘客キャンペーン・イベントの実施 **継続** 【予算額 2,164千円】
首都圏「銀座NAGANO」や都市部における誘客促進、企業等との連携を通じた誘客活動
- ・ 広域連携による、誘客促進活動の実施 **継続** 【予算額 1,596千円】



広域連携イベント



名古屋栄駅イベント



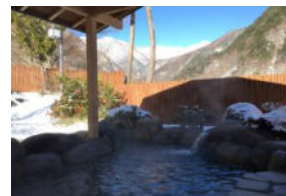
モンペルフレンドフェア

②観光地域づくり推進事業

- ・ (一社)駒ヶ根観光協会補助金 **継続** 【予算額 27,590千円】
駒ヶ根観光協会の運営を支援する補助
- ・ 観光のまちづくり事業補助金 **継続** 【予算額 1,350千円】
観光振興を目的とするイベント及び団体活動を支援する補助制度
補助率 10/10（限度額：観光振興イベント 30万円、観光振興活動 15万円）
- ・ 早太郎温泉開湯30周年記念事業補助金 **新規** 【予算額 800千円】
令和7年に開湯30周年を迎える早太郎温泉事業協同組合が実施する事業を支援するための補助制度
- ・ 駒ヶ根高原イベント事業 **継続** 【予算額 1,000千円】
観光客が多く訪れる夏の時期に、観光客も市民も楽しめるイベントを駒ヶ根高原で開催し、駒ヶ根高原へのリピータを獲得する。
対象経費：広報用チラシ作成、会場設置業務委託費、バス借り上げ料、消耗品費
- ・ 観光高付加価値創造事業 **継続** 【予算額 1,900千円】
観光資源のブラッシュアップのために、施設の改修、インバウンド対応、観光商品の企画・開発・ブラッシュアップ、情報発信に伴う経費の一部に対して補助する。
補助内容：宿泊施設の改修又は改築 補助率 1/10（限度額100万円）
観光アクティビティのブラッシュアップ等 補助率1/10（限度額20万円）



駒ヶ根高原イベント「夜の森テラス」



早太郎温泉郷

③地域間交流事業

- ・ 国内における友好都市や食文化を通じた交流を積極的に推進する。継続 【予算額244千円】
磐田市、二本松市、かほく市
- ・ 駒ヶ根市PRキャラクター「こまかつぱ」を活用した観光PRの推進継続 【予算額983千円】
市内外でのイベントへの参加やノベルティーグッズの製作
- ・ 台中市訪問事業新規 【予算額3,680千円】
新型コロナウイルス感染症の影響により交流が途絶えている台中市との交流再開に向けて、台中市を訪問する。



磐田市「裸まつり」



かほく市「かにカニ合戦」



こまかつぱイベント



台中市訪問

④地域おこし協力隊

- ・ 地域おこし協力隊員継続 【予算額7,500千円】
地域おこし協力隊員1名により、登山道整備や山岳観光に関するPR活動などを幅広く行う。

移り住みたくなる魅力に富んだまちづくりを進めます

【総合戦略Ⅱ-(1)-① 移住・定住の推進】

【総合戦略Ⅱ-(1)-② 移住希望者に対する情報発信の強化】

1 移住・定住の推進

R7.2
商工観光課

めざす姿

- UIJターンで市内に暮らす人が増え、地域コミュニティが活発になる。
- 移住した方と地元の方が互いを尊重し、認め合い、幸せに住み続けられる。

	推 移（令和6年度は令和7年1月現在）										目標
	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R4～8	
UIJターンによる移住者数	80人	152人	144人	94人	154人	133人	98人	129人	155人	650人	

※移住者数は推進協議会で関わった移住者数と住宅支援事業制度を利用した移住者数

7年度の ポイント

- ①空き家バンクの登録促進と空き家掘り起こし・啓発活動
- ②協議会と連携したイベントを実施し移住定住を促進

- ① IJU相談員・地域おこし協力隊員、信州駒ヶ根暮らし推進協議会と連携し、移住や暮らしの情報を発信し、移住・定住に繋がります。

- ② 暮らし・移住情報の発信とワンストップ移住相談

(1) 都市部でのセミナー参加や体感イベント等の実施・広告宣伝

継続

【予算額 2,789千円】

- ・移住交流推進機関や長野県、上伊那広域連合でのフェアやセミナーに参加
- ・移住者と地域の方、移住希望者がつながる移住者交流会を開催
- ・現地体感会を季節ごと開催し、駒ヶ根のリアルを体感
- ・移住ポータルサイト、市ホームページ等での積極的な発信
- ・SNSを活用し、若者世代への発信を強化



相談会の様子



現地体感会の様子

(2) お試し滞在事業の実施

継続

【予算額 1,000千円】

- ・定住移住に向けた活動をするために移住定住に向けた活動を支援。
- | | |
|------|--------------------------------|
| 対象者 | 上伊那区域外に住所があり、当市への移住定住を目的に宿泊する方 |
| 助成額 | 一人1泊5千円（1回の滞在で2人で2泊まで）年間5万円上限 |
| 対象施設 | 市と契約した市内宿泊施設（14施設） |

(3)こまがねリアル体験住宅事業の実施

継続

【予算額 1,172千円】

・移住希望者の方に市での暮らしを長期で体験できる住宅を設置し、移住に繋げる。

対象者 上伊那区域外に住所があり、移住定住を目的とした活動のために宿泊する方
利用料 1週間につき1万円 最大4万円



体験住宅の外観▶

(4)空き家に対して補助金を活用し、駒ヶ根市空き家バンクの登録促進と利活用推進

継続

【予算額 8,000千円】

・空き家バンクの登録物件を対象に空き家片づけ補助金、空き家リフォーム補助金、空き家バンク成約奨励金を活用し、空き家バンクの有効活用を推進する。

対象者 空き家バンク所有者、売買契約者、賃貸借契約者。
・空き家バンク成約奨励金 所有者（売買等成立時）10万円
・空き家バンク改修補助金 経費の1/2以内 50万円上限
・空き家バンク片付け補助金 経費の1/2以内 10万円上限

(5)地域おこし協力隊員による空き家の掘り起し事業を展開

継続

【予算額 4,969千円】

・空き家バンク事業の推進と空き家の有効活用を進めるために、地域おこし協力隊員が空き家の掘り起こしをして移住者の増加を図り、移住・定住事業の活性化を行う。



(6)物価高騰対策・マイホーム取得支援事業

継続

【予算額 20,000千円】

・子育て世代の市内への定住を促進し、定住人口の増加及び地域の活性化を図るとともに、物価高騰対策としてマイホーム取得費用の一部を助成する

対象者 市内に住宅の新築工事または購入（新築または中古）の契約を締結した人。
（年齢要件等あり）
助成額 新築住宅で最大50万円、中古住宅で最大40万円。

(7)UIターン就業・創業移住支援金事業

継続

【予算額 7,000千円】

・市内企業等の担い手不足の解消及び市内への移住促進を図る。

対象者 東京圏（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）、愛知県、大阪府に在住、勤務の方
（他に住所要件や就業先要件あり）
助成額 世帯100万円、単身60万円 【18歳未満の子ども：一人につき30万円】

事業実績

（令和6年度は令和7年1月現在）

年度	R3	R4	R5	R6
都市部での相談会来場者数	167名	206名	225名	197名
駒ヶ根体験イベント等参加者数	コロナ禍のため休止		21組38名	23組35名
駒ヶ根市来訪者（相談）件数	142組215名	201組290名	170組275名	124組198名
お試し滞在事業利用数	63組88名	45組78名	77組130名	87組146名
空き家バンク登録件数	11件	11件	33件	23件
空き家片付け補助申請件数	9件	9件	12件	11件
空き家リフォーム補助申請件数			5件	9件
空き家成約奨励金			13件	12件
移住者交流会		14人	101人	31名
移住者数	54組133名	42組98名	66組155名	47組110名

※ 相談会来場者数はオンラインセミナー参加者数を含む

2 関係人口の創出・拡大

R7.2
企画振興課

めざす姿

さまざまなかたちで駒ヶ根市に思いを寄せる人々が、多様なかたちで、市民とともにまちづくりや地域づくりに関わり、定住人口の増加につながっている。

区 分	推移						目標	
	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
ふるさと納税寄附者数(実人数)	12,205	14,226	16,426	16,338	21,694	→	→	16,000

7年度の ポイント

- ・ふるさと寄附制度の積極的な推進
- ・高校生の探究支援及び地域連携の体制強化

① ふるさと寄附制度

拡充

【予算額】 歳入(寄附額) 800,000千円

歳出(募集経費等) 400,000千円

歳出(寄付金積立) 400,000千円

駒ヶ根市では平成27年度以降、返礼品の拡充やクレジット決済やワンストップ特例制度の導入、ポータルサイトの複数導入等を進め、駒ヶ根市を寄附先に選んでいただけるよう推進を進めてきました。

令和7年度も返礼品の拡充などを進め、さらなる駒ヶ根ファンの獲得を図っていきます。

区分	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (12月末)
寄附額(千円)	7,160	13,763	353,423	326,202	389,262	224,281	345,176	536,802	550,525	593,013	741,513	1,163,037

※R3はクラウドファンディング分7,644千円を含む

② 高校と連携した人材育成事業(ウミガメプロジェクト)

拡充

【予算額 1,900千円】

【目的】

高校生が、進学や就職という人生の最初の大きな選択をするこの重要な時期に、故郷への関心を高める機会をつくることで、いったんは進学や就職で都市部へ出た若者が、やがて駒ヶ根市に戻ろうと考える動機づけを目指すとともに、コミュニティビジネスの創業や地元企業への就職に向けた支援を行います。

【概要】

市内2つの高校と連携し、各高校の「総合的な探究の時間」を利用し、これまでの産・学・官、また、地域との連携の取組をさらに深めながら、「講座」、「現場体験」及び「職場体験」等を通じ、学びと体験の場から主体性を引き出し、社会に参加する力を高め、地域課題の解決に向け取組を行います。

主 な 取 組

赤穂高校

<地域未来デザイン>

「総合的な探究の時間」を活用した地域探求講座の取組。
9講座程度を用意し、グループごとの探究学習を進める。

駒ヶ根工業高校

<キャリアデザイン>

企業見学やキャリアデザイン講座、ワークショップなどによるキャリア意識の醸成

課外活動

・都市圏の大学生と地元高校生、看大生等との相互交流や合同ワークショップなど

③ 域学連携コーディネート事業

【予算額 5,500千円】

【目的】

「ウミガメプロジェクト」における地元高校と地域との連携や「シンKOMAGANEプロジェクト」における都市圏の大学等と地域との連携などを強化し、両プロジェクトの深化を図ります。

【概要】

地域おこし協力隊は、地域資源の掘り起こしや総合的な探究の時間、キャリア教育の企画・運営・支援を担い、各主体をつなげるコーディネート機能の強化を図ります。(特別交付税措置)